伊香高等学校「森の探究科」開設

～環境未来人材の育成にむけて～

令和７年度
「新時代に対応した
高等学校改革推進事業」

滋賀県立伊香高等学校 魅力化推進室(「森の探究科推進室」)

■本日の流れ

1｜学校概要

2｜『森の探究科』設置の経緯

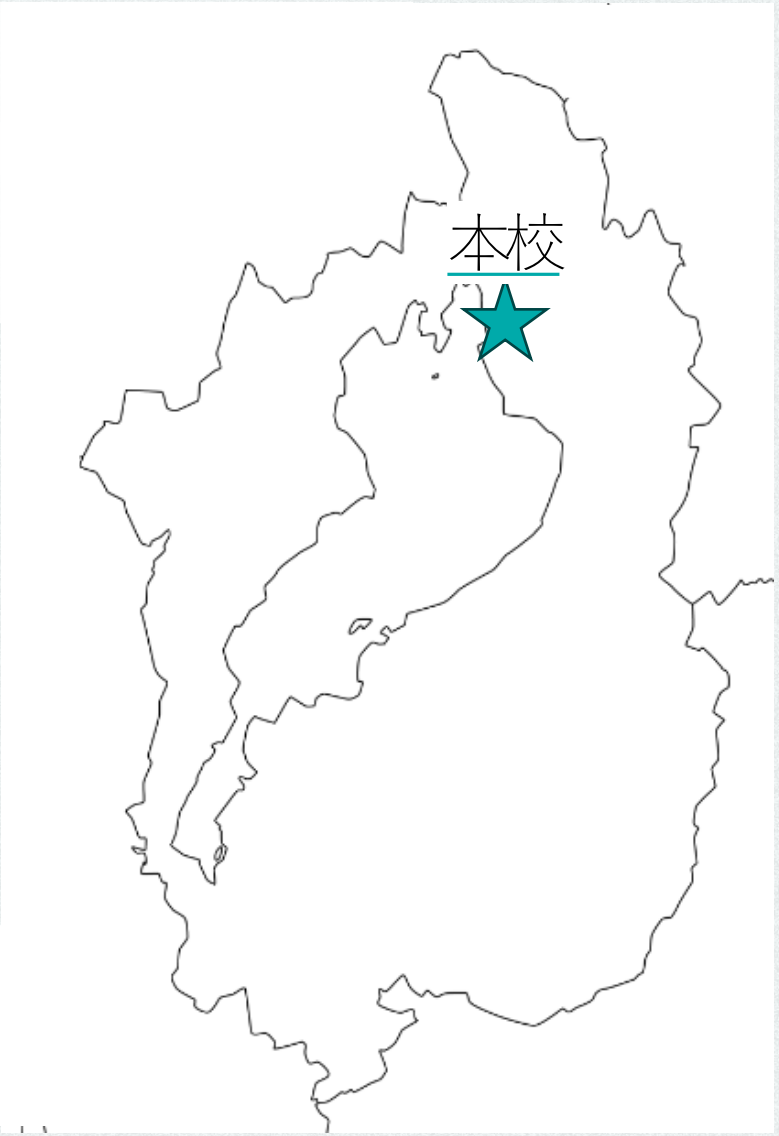
3｜特色・魅力あるカリキュラムおよび
教育方法の開発

4｜関係機関等との連携協力体制整備等

5｜今後に向けた取組の方向性

1．学校概要

- ✓ 明治 29 年 農業補修学校として設立
- ✓ 地域の学校として 129 年
- ✓ 滋賀県最北部に位置
- ✓ 生徒数 240 名、教員数 32 名
- ✓ 1 学年 3 クラス



➢ 伊香高等学校 スクールミッション （令和４年８月 県教委策定）

① 未来を拓く心豊かでたくましい人づくりのため、生徒の自立する力・伝える力・協働する力・創造する力等の生きる力を育成する学校

② 地域の熱意と協力により開校した伝統のもと、地域との連携・協働した学びにより、将来の地域を担う人材を育成する学校

③ 基礎学力の充実や発展的な学習等により、生徒の進路希望を実現するための確かな学力を育成する学校

➢ 伊香高等学校 グラデュエーションポリシー （令和５年３月 策定）

■教育基本法の精神に則り、将来の地域社会に貢献しうる、知・徳・体の調和の取れた人間豊かな人材を育成します

■地域の未来を創造し、持続可能な地域社会を支える**環境未来人材**を育成します。

・夢を描き、進路目標を実現する**自己実現力**
・自己の思いを伝えながら、他者の多様性を理解する**コミュニケーション力**
・人や地域と協働し、新たな創造に向かう**課題解決力**
・未知の困難に柔軟に対応し、あきらめない**レジリエンス力**

2.新しい普通科設置の経緯

★ R４年度より滋賀県教育研究事業
『県立高等学校魅力化推進事業』スタート

▶ 新学科設置に向け
R４年度『普通科改革支援事業』応募へ

★ R５年３月 (R４年度)
『滋賀の県立高等学校魅力化プラン』策定

▶ 本校は地域連携重点校に指定

これからの
地球環境と地域のために

「森の探究科」を設置（令和７年度）

伊香高校は今年度１２９年目を迎える。本校は滋賀県最北部に位置し、周囲は緑豊かな山々に囲まれ、日本最大の湖・琵琶湖も間近に見渡すことができる。これら「森・川・里・湖」が水系でつながることを体感できる滋賀ならではの学びに取り組むべく、新学科「森の探究科」を令和７年度より設置する。
「森の探究科」の学びは、「森で学ぶ」をコンセプトに、生徒の生きる力を地域と育むことを目標とする。学びのなかには、滋賀県の提唱するMLGs（マザーレイクゴールズ・琵琶湖を切り口とした滋賀県版のSDGs）や、２０２３年に「ゼロカーボンシティ宣言」を行った長浜市と連携しながら、持続可能な社会と琵琶湖に根差した暮らしの創造、人と自然が共存する循環型社会の構築を考える人材育成を図る。

1 豊富な地域資源

2 学校林の存在

3 県・市の取組

4 地域の自然災害

切迫する環境問題

河川氾濫

土砂災害

山火事

【滋賀県立伊香高等学校】地域社会学科（令和７年度設置）

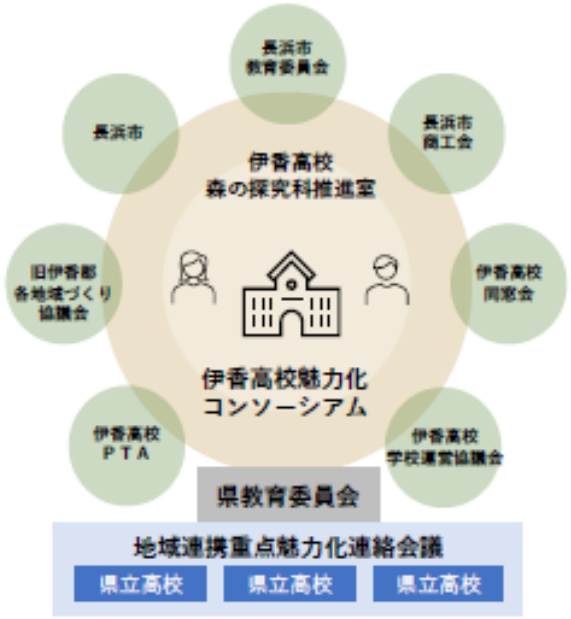
新学科コンセプト

滋賀県北部地域の豊かな自然環境、森林資源などを活用し
「森で学ぶ」をコンセプトに、生徒の「生きる力」を地域とともに育む
＜ゼロ・カーボン・ハイスクール＞をめざす

培う資質能力

- 人や地域と協働し新たな創造に向かう **課題解決力**
- 自己の思いを伝えながら他者の多様性を理解する **コミュニケーション力**
- 夢を描き進路目標を実現する **自己実現力**
- 未知の困難に柔軟に対応しあきらめない **レジリエンス力**

関係機関との連携・協働体制の構築方法



令和６年度の目標

- 「森の探究科推進室」を中心とした研究開発
  - ・カリキュラムの具体化と先行授業の実施
  - ・コンソーシアム構築の充実を図る
  - ・ウェブサイトやSNSを活用した情報発信および学校説明会の実施

令和６年度の取組状況

- カリキュラムアドバイザーを加えたカリキュラム開発会議の開催
- 新学科設置に向けた先行授業実施
  - ・「森のキホン」「森の恵み」の先行授業を実施
- 地域をフィールドとした探究的な学びの実施
  - ・地域の人々や文化的資源を活用した多様な地域探究の学び
- 地域と伊香高のミライ創造コンソーシアム理事会と専門チーム会議の開催・コンソーシアム規約や体制整備および今後の方向性を議論、生徒募集専門チーム会議等を開催
- 県内中学生・保護者・中学校向け広報活動の実施
- 先進校視察(林業の学び)
- 運営指導委員会の開催

令和６年度の成果と課題

成果

- 新学科設置に向け、主に「森のキホン」「森の恵み」の先行授業を実施
- 地域探究を行う魅力的なカリキュラムの開発を目的として、類型での授業や「総合的な探究の時間」の中で様々な活動を実施
- コンソーシアム理事会と森の探究科運営専門チーム会議、生徒募集専門チーム会議の開催
- 「伊香高通信」「新学科PRチラシ」「新学科PRポスター」「下宿サポーター募集チラシ」の発行
- 令和７年度新学科設置に向け県内中学生・中学校向けの広報活動を実施、体験入学を年３回実施
- 伊香高等学校魅力化シンポジウムの開催

課題

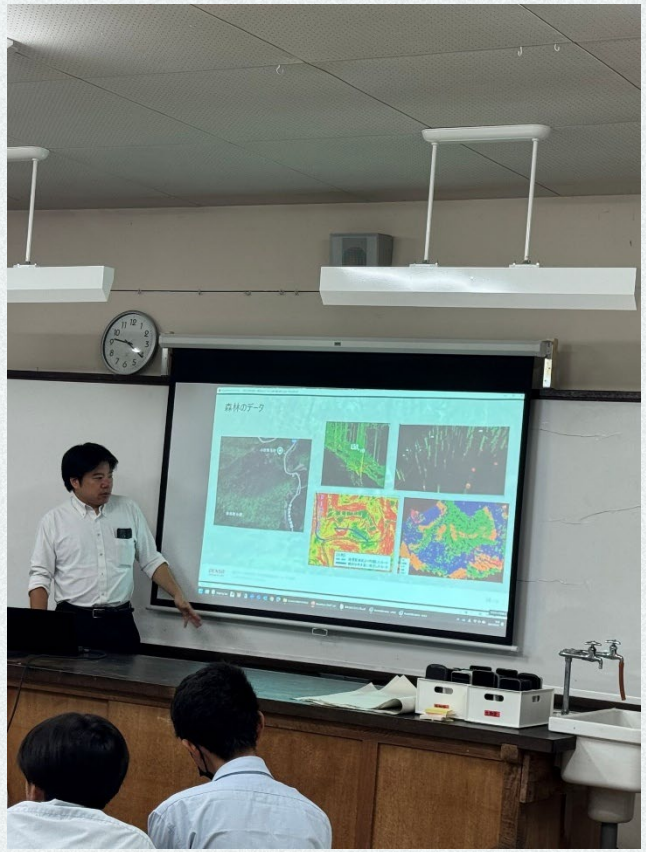
- 学年、教科を超えた連携など、全体のカリキュラム・マネジメント
- コンソーシアム参画団体とのコミュニケーション、コンソーシアムと学校運営協議会の役割の明確化
- 新学科に関する具体的な学びの内容や卒業後の進路についての周知
- 全国募集に向けた準備
- 事業期間終了後の取組継続のための仕組みづくり

カリキュラムマップ

① 生徒募集の工夫

- カリキュラムの充実（※１）
  - ▶ 地域の森林従事者、県・市職員、地域企業の方々から協力を得て、カリキュラムを作成。２年次までに計60名の専門家の方々と連携予定
- 説明会やシンポジウムなどでの広報活動（※２）
  - ▶ 生徒の発表も積極的に実施、依頼のあった説明会や取材、模擬授業等は全て引き受ける!!
- 伊香高通信（季刊）の地元全戸配布
- 滋賀県内の全公立中学校への学校案内配布と、近隣中学校への説明会のチラシ配布
- HP、インスタグラム、facebookの充実
- 下宿サポート（※３）の体制の構築と運用
- 指定期間中に地域みらい留学（※４）に参画

※１.産官学連携ワークショップ



- 株式会社デンソー
- 滋賀県立大学
- 滋賀県庁
- 地域森林事業者

による合同企画

▶ 森林の３Dマップ活用について検討

※2.万博の出展(8/3 ＠関西パビリオン)

▶ワークショップ・知事とのクロージングイベントに参加

※3.木之本留学サポートの会の設立

伊香高校

遠方から入学する

高校生へのサポート

をしてくださる方を探しています

伊香高校では令和7年度から「森の探究科」を新設します。滋賀県南部の中学生からも「森の探究科に入学したい！」という声を頂いています。そこで、遠方から入学してくる生徒の生活をサポートしてくださる方を探しています。
木之本の町で、地域の方々と交流を深めながら、勉強や部活動に積極的に取り組める環境づくりにご協力をいただけると幸いです。

例えば、このような形でご協力頂ければと思います

下宿生のために
朝・夕食を提供できる

生徒が自立した生活をするための
サポート・見守り

1部屋個室を
提供できる

高校生へのサポートをご検討くださる方は、
裏面をご参照いただき、伊香高校までご連絡ください。

GO BEYOND 超えてゆけ
滋賀県立 伊香高等学校
〒529-0425 滋賀県長浜市木之本町木之本251
TEL：0749-82-4141　FAX：0749-82-4477

「まち全体が寮」をコンセプトに

「食事の支援」
「見守り支援」
「住まいの支援」を実施

木之本留学サポートの会 組織図

会長・副会長

相談役

同窓会サポート部
木之本留学の促進に向けた、OBOGへの呼びかけを様々な形で実施

伊香高校 同窓会

中学生の募集
遠方から伊香高校に入学を希望する中学生を県内外から募集する

伊香高校

K-ZOHN 運営協議会

会計部
木之本留学実施に関わる会計を行う

木之本のお母さんグループ（仮称）

食事提供サポート部
下宿生の食生活をサポートし、健康的な暮らしを維持するための支援を実施

木之本自治会

伊香高校PTA

見守りサポート部
下宿生が安心して生活できるよう定期的な連絡や訪問を通じて、健康状態や生活状況の確認などを実施

木之本地区連合自治会

木之本地区 地域づくり協議会

三萬一心でサポート部
食材や備品の提供、賛助など多様な形で高校生の下宿を支援

団体または個人

随時合流！
支える地域のお父さん・お母さんは多い方が心強い！
サポートの形はそれぞれ。
木之本留学を応援してくださる方は随時参加してもらいます。

※４. 地域みらい留学 生徒募集状況

種類別	組数
５・６・８月_事務局主催オンライン説明会	75
５・６・８月_学校個別説明会 参加者数	15
6 /21・22_対面フェス 参加組数 (東京)	18
7 /12・13_対面フェス 参加組数 (大阪)	40
接点を持った生徒数 累計	148
8/19_第１回中学生体験入学 県外申込者数	6
7 /17_個別現地訪問	1

② 校内体制の構築

- 「森の探究科」以外の普通科においても、授業改革を実施
  カリキュラムの見直しや実習の充実化を図ることができた
- 普通教科において、教科を横断した内容を取り扱ったり、「総合的な探究の時間」においては、類型を横断した取組を実施することができた
- 進路指導体制の再構築を実施
  特に「個別最適な学び」として、本校独自の指導プログラム「Go Beyond プログラム」を展開
- 教員内でLINEのオープンチャット機能を利用し、授業や部活動での取組・生徒の課外活動を迅速に共有
- 学校説明会や成果発表会、地域イベント等に多くの教員が積極的に参加するようになり、学校全体として魅力化事業を推し進めることができた

３.特色・魅力あるカリキュラムおよび教育方法の開発

「森の探究科」の学び

1

地域を
フィールドに

地域の森林資源の整備と活用を実践的に学ぶなかで、フィールドワークや地域の専門家との対話を通して探究的に学ぶ。林野庁が提唱する「新たな森と人との関わり」＝「Forest Style」の創造につながる学びを展開し、森林資源の活用を通して、健康的、文化的で心豊かな暮らしを目指す資質を涵養する。

2

滋賀県ならではの
学び

滋賀県の森林面積は約50％を占めているが、県内面積の6分の1を占める琵琶湖を除くと、陸地の60%近くが森林となっている。山々に降り注ぐ1滴は、やがて川となって田畑や里地を潤しながら、琵琶湖へと流れ込み、琵琶湖の豊かな生態系を育んでいる。このような「森・川・里・湖」のつながりを本学科の学びとして展開する。

3

多面的・多角的に
森を捉える

森林は、生物多様性の保全、土砂災害の防止、水源の涵養、保健休養の場の提供など、多くの機能を有しており、私たちの生活に大きく関わっている。このような森林の多面的機能の意義や役割を見直し、包括的な自然環境の理解やエネルギー、森林サービスといった新たな森林価値の創出を試みる。

森の多面的な機能
有限会社 依田林業
YODA FORESTRY CORP.
二酸化炭素を吸収して
酸素を供給する
土砂崩れを防ぐ
登山道を整備する
水を育む
木材を供給する
野生生物のすみかとする
安らぎを与える
材料を加工し生産する
水を安定して供給する
エネルギー資源の活用ができる
(有)依田林業

依田林業ＨＰ
より掲載

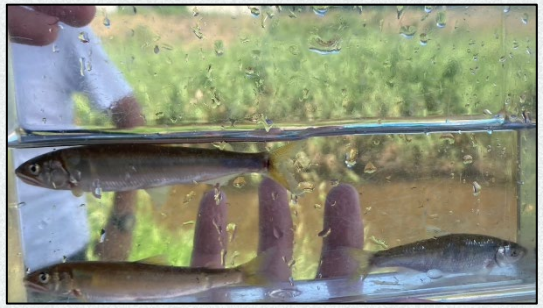
3年間の流れ

	1年	2年	3年
学校設定科目	森のキホン（2単位）	森の恵み（2単位） 持続可能な社会（2単位）	森の未来創造（4単位）
普通科目	1～3年ベースとなる普通科目での学び		

1年｜森のキホン

自然観察

森・川・里・湖のつながり

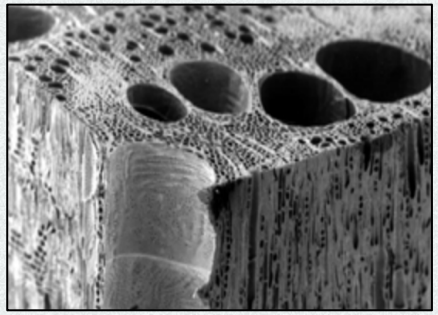


生物多様性保全

土壌

林業の川上から川下

樹木の性質



湖北の文化

2年｜森の恵み

木工

林産物

伝統品

アロマ

アウトドア

染物

教育

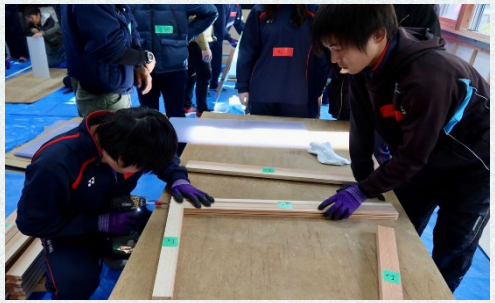
２年｜持続可能な社会

環境問題

環境技術

エネルギー対策

断熱改修



防災

一次産業

まちづくり

3年｜森の未来創造へ

3年｜森の未来創造（4単位）

課題を **自分で** 設定します！例えば、

「人が集まる森をつくろう」　「森と水の関係調査」

「学校で発電しよう・地域電力の循環」

「森と地域のこども達」「アートとしての森」　など…

先行授業例１
森のキホン

琵琶湖の源流を辿る

生物多様性とは

奥琵琶湖に位置する「山門水源の森」は1400万人の飲料水を支える淀川の源流地域である。特異な気候条件や湿地帯を有するこの場所で、珍しい植生や生態系を観察し、生物多様性の保存について講義をうけた。

河川生態系の調査

森・川・里・湖のつながりとは

奥琵琶湖の源流、西浅井大浦川および学校裏に流れる赤川の水生生物調査を行った。大浦川と赤川、それぞれの上流・中流・下流、それぞれの水や土砂を採取し、森から供給される木の葉等の有機物、ミネラルを起点とした、底生動物や魚、プランクトン等の循環について学習した。

森林施業を知る

森林循環を学ぶ

森林管理の現場見学を行った後、測量・間伐といった森林施業の手法を学習した。その後地域工務店にて製材所見学を行い、地域で活躍する設計士様の案内のもと、建設現場を見学した。一連の実習において、林業の「川上～川中～川下」を網羅し、森林資源の循環を体感するに至った。

先行授業例２
森の恵み

木材加工実習

森林資源を活用する

昨年度は、滋賀県内の森林から伐採された木材を用いて机やベンチを製作、図書館や職員室などの校内に設置し、校内の木材利用を推し進めた。今年度は、来年度放映予定の大河ドラマ「豊臣兄弟!」のPR活動の一環として、賤ヶ岳合戦の舞台となる田上山にて休憩場所を確保すべく、ベンチを製作した。

食文化実習

森の恵みを食す

地域事業者からいただいたキノコやタケノコ、鹿肉などの森の恵みを調理し食すことで、人と自然の関係、身近にある里山と雑木林、放置竹林などの関係を見直すきっかけとした。

森のようちえん

自然の中を主体的に過ごす

北欧諸国で始まったとされる「森のようちえん」。我が国でも、恵まれた自然環境を活かし、その取組が広がっている。本校においても、自然の中で豊かな感性を育むことを目的に、近隣のこども園の園児達と森の中で自由に遊び、自然の中で過ごす良さを体感した。

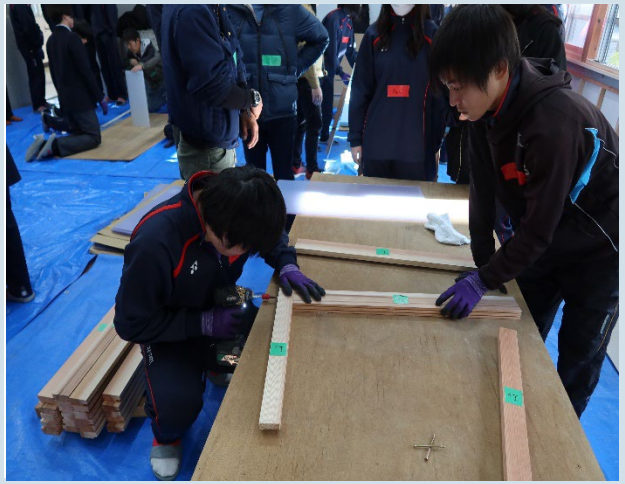
先行授業例３
持続可能な社会

発電所見学

未来のエネルギーを考える

近年の顕著な地球温暖化に対して、政府は2050年に温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする目標を掲げている。脱炭素とエネルギー安全保障の両立が求められるなか、地域で再生可能エネルギー事業に取り組む企業を訪問し、エネルギーのこれからについて考えた。

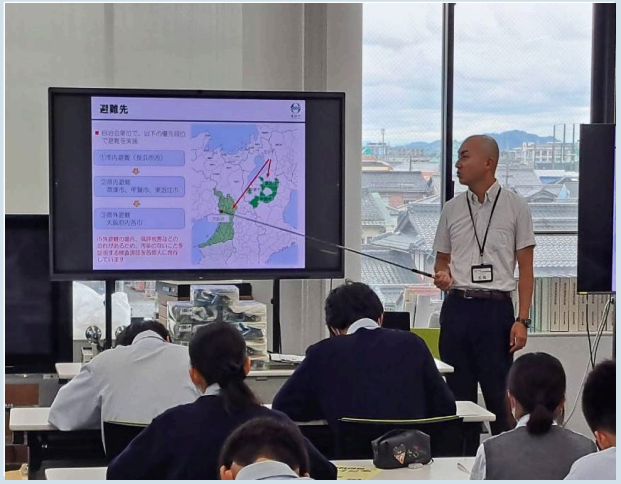
断熱ワークショップ



温暖化対策を自分事に

地球温暖化防止のため、再生可能エネルギーによるエネルギーの代替以外に、エネルギー消費を削減する省エネについても取り組む必要がある。そこで省エネについて体感的に学ぶため、教室の断熱化に取り組むワークショップを実施した。

住み続けられるまちづくり



防災を意識したまちづくり

防災をテーマに、住み続けられるまちづくりを検討。長浜市の防災担当者から、市として取り組んでいる原子力災害に関する備えについてご講義いただいた後、持続可能で防災を考慮した電源構成について検討を行った。

学校紹介動画

学校 HP

教室の断熱ワークショップ

４.関係機関等との連携協力体制整備等

コーディネーターについて

- 事業全体の企画立案やコーディネート、コンソーシアム活動における調整に尽力

- 森の探究科のカリキュラムの立案および先行授業の企画・実施を担う

- 「総合的な探究の時間」やコース実習、課外活動の企画・実施を担う

コーディネーターについて

◆長浜市地域おこし協力隊

▶ 「総合的な探究の時間」やコース授業の企画・実施、HPやSNSなどの広報活動、下宿体制の構築・運用に尽力

◆ カリキュラムアドバイザー

▶ 森の探究科のカリキュラムの立案および先行授業の企画・実施を担う

カリキュラムの検討について

- ◆ R５年度より、本校教員、コーディネーター、カリキュラムアドバイザーの校内組織を結成し、定期的に会議を実施

- ◆ コンソーシアムの中に、市内事業者・団体、長浜市、滋賀県事業者から構成される「森の探究科運営専門チーム」を発足させ、先行授業に基づいたカリキュラム案の検討を行った

- ◆ 先進的な取組を行う高校や大学、森林事業者の視察を実施、視察内容をカリキュラムに反映させた

5. 今後に向けた取組の方向性

滋賀県教育委員会事務局
高校教育課　魅力ある高校づくり推進室

（１）森の探究科に入学した生徒の、３年後の姿（進路）を意識した学びの展開
（２）１期生の学習成果や感じたこと、思いを踏まえた、次年度以降での学習内容のブラッシュアップ、生徒の声を活かした学校づくり
（３）普通科も含めた伊香高校全体のブランディング、教職員間での方向性やビジョンの共有、探究的な学びを進めるにあたっての教員スキルの向上
（４）地元市および市教育委員会、市内中学校との連携充実
（５）地元企業・施設等との連携充実
（６）大学との連携深化
（７）中学生や保護者、中学校の先生方、地元市、地域の方々への、「森の探究科」での取組や在籍する生徒の学びの成果などの周知
（８）入学者の確保
（９）全国募集、遠方からの入学者サポート（木之本留学）
（10）県教育委員会による伊香高校の取組支援
（11）令和８年度以降の学びの環境づくり、コーディネーターの配置

伊香高校　GO BEYOND ～超えてゆけ～

ご清聴ありがとうございました。